

H
A
K
U

100年を超える肌研究から生まれた「HAKU」の最高傑作 「HAKU メラノフォーカス V」誕生 ～シミの記憶をゼロ化へ～ 2018年3月21日(水)発売

資生堂は、13年連続美白美容液売上No.1^{※1}の美白ブランド「HAKU」より、2種の美白有効成分をダブル配合した薬用美白美容液「HAKU メラノフォーカスV」(医薬部外品)【全4品目4品種 ノープリントプライス】を2018年3月21日(水)に発売します。

*美白化粧品は、メラニンの生成を抑え、シミ・そばかすを防ぎます。

◆「HAKU メラノフォーカスV」(医薬部外品)は、資生堂の100年を超える肌研究と先端のシミ予防研究から生まれた「HAKU」史上最高傑作の薬用美白美容液です。

◆資生堂は、2011年に日本で初めて、美白有効成分4MSK^{※2}とm-トラネキサム酸^{※3}の2種同時配合に成功。当社だけが実現する、美白への異なるアプローチを持つ2種の美白有効成分を同時配合した「抗メラノ機能体」として「HAKU」に搭載。さらに今回、新たにVカット複合体^{※4}を配合。根本原因を整え、シミの生成連鎖を抑止します。

◆「HAKU」はシミ予防のための美白美容液として2005年に誕生。発売以来13年連続美白美容液売上No.1^{※1}のブランドです。「メラノフォーカス」シリーズの累計売上は1,460万本^{※5}を突破し、多くのお客さまにご愛用いただいています。

※1 インテージ SRI 美白美容液市場 2005年1月～2017年12月 金額シェア(美白以外の機能を兼ね備える商品は除く)

※2 4-メトキシサリチル酸カリウム塩 ※3 トラネキサム酸 ※4 整肌・保護成分:トルメンチラエキス、イチヤクソウエキス、グリセリン

※5 累計販売個数 2005年4月～2017年12月



【商品一覧】

商品名	分類	容量
HAKU メラノフォーカスV(医薬部外品)	薬用 美白美容液	45g
HAKU メラノフォーカスV レフィル(医薬部外品)		45g
HAKU メラノフォーカスV 20(医薬部外品) 【数量限定品】		20g
HAKU メラノフォーカスV 10(医薬部外品) 【数量限定品】		10g

※価格はすべてノープリントプライスです

HAKU メラノフォーカス V(医薬部外品)

100年を超える肌研究から導き出される新知見

資生堂が日本女性の白い肌への憧れに向き合い、研究開発を初めてから100余年。いつの時代も先進のサイエンスでこたえ続けてきました。美白研究において、1990年代はアルブチンを皮切りに美白有効成分を次々と開発。日本で認可されている美白有効成分約20種類のうち、最多の5種類(アルブチン、安定型ビタミンC誘導、ビタミンCエチル、m-トラネキサム酸^{※3}、4MSK^{※2})を薬事開発し、革新の美白化粧品を送り出してきました。

また、長年にわたり、「メラニンの生成」という現象だけではなく、シミ形成のさまざまな原因解明に取り組んできました。最新の研究では、新たにシミと血管の関係に着目。異常な毛細血管ネットワークがシミ形成に関与することを発見しました。今後もシミ予防の新たな価値創出に向けて研究を進めています。

商品特長

こうした研究から導かれた最新知見を結集し、シミ予防研究の最高傑作として、新美白美容液「HAKU メラノフォーカスV」(医薬部外品)を発売します。本品は、資生堂の独自技術により、2011年に日本で初めて、美白有効成分4MSK^{※2}とm-トラネキサム酸^{※3}の2種同時配合に成功した「抗メラノ機能体」を搭載。そして今回、新たにVカット複合体^{※4}を配合し、さらに進化しました。肌にピタッと密着する心地よい使用感で、美白成分をすみずみまでいきわらせます。

パッケージも刷新。純白のボディに加え、天面には希望感あふれる七色に輝くオーロラ箔素材を使用し、シミ予防のお手入れをするときの女性の前向きな気持ちを表現したデザインです。

コミュニケーションについて

美白に关心のある女性の意識調査^{※6}をしたところ、「以前に浴びた紫外線の影響で、シミができたと感じる」という回答が78%にのぼり、現在よりも15年~20年前に浴びた紫外線の影響だと思っている人が多いことが分かりました。また、シミの原因となったその時は、楽しく輝いていた思い出であるものの、シミができてしまったことは後悔していることも分かりました。

そこで、シミさえなければもっと前向きになれる、と感じている女性の気持ちを捉え、これから楽しい思い出を後悔に変えさせないというメッセージをコミュニケーションで発信します。

※6 美容意識調査 2017年6月 N=150 シミと思い出に関する意識調査(インターネット)2017年11月 N=400

プロモーションと販売チャネル

CMモデルは、新たに木村文乃(きむら ふみの)さんを起用します。「思い出ジミをつくれないで、もっと私らしく。」をキャッチコピーに、2018年3月下旬よりTVCM・交通広告・WEBプロモーションを展開します。

販売チャネルは、ドラッグストア・GMS・化粧品専門店など約17,000店です。あわせて、資生堂の総合美容サイト「ワタシプラス」でも販売します。

〈以下余白〉

シミ予防研究の先駆者として新たなステージを切り開く

HAKU は 2005 年の誕生以来、
シミに対するお客様の意識を出発点に、
シミができる肌特有の状態を徹底研究。

これまでの常識を覆す新たな事実を次々と発見し、対応してきました。

そして 13 年目を迎えた 2018 年、シミ予防の最先端技術をもって
7 代目 HAKU は新しいステージへ進化を遂げます。
シミ予防のエキスパートとして、これからもこの先も
美白をする女性たちをサポートしつづけます。



初代～7 代目「HAKU メラノフォーカス」シリーズ

2005年

2007年

2009年

2011年

2013年

2016年

2018年

メラノフォーカス

メラノフォーカス 2

メラノフォーカス EX

メラノフォーカス W

メラノフォーカス CR

メラノフォーカス 3D

メラノフォーカス V

新搭載成分・技術

美白有効成分
m-トラネキサム酸※3配合

美白有効成分
4MSK※2配合

白連果®HA※7配合

抗メラノ機能体※8配合

アンダーキルダーネ※9配合

3D ターゲティング処方

Vカット複合体※4配合



※2 4-メキシサリチル酸カリウム塩 ※3 トラネキサム酸 ※4 整肌・保護成分:トルメンチラエキス、イチヤクソウエキス、グリセリン

※7 ハス種子発酵液、ヒアルロン酸(保湿) ※8 2 種の美白有効成分(4MSK、m-トラネキサム酸)

※9 整肌・保護成分:ホワイトリリー、塩酸グルコサミン、グリセリン

【商品概要】

商品名・容量・価格	商品特長
HAKU メラノフォーカスV (医薬部外品)	根本原因を整え、シミの生成連鎖を抑止し、美白する。 明るく澄んだ、生まれたての透けるような肌へ。
HAKU メラノフォーカスV レフィル (医薬部外品)	
薬用美白美容液 各 45g	抗メラノ機能体:2種の美白有効成分(4MSK^{※2}、m-トラネキサム酸^{※3}) 配合 Vカット複合体^{※4}新配合 アンダーシールダー^{※9}配合
ノープリントプライス	<ul style="list-style-type: none"> ○根本原因を整え、シミの生成連鎖を抑止し、美白します。 ○なめらかな美容液がピタッと密着します。美白成分を肌のすみずみまでいきわらせます。 ○乾燥や肌あれを防ぎます。 ○うるおいで肌を整えて、明るく澄んだ、生まれたての透けるような肌へ導きます。 ○メラニンの生成を抑え、シミ・そばかすを防ぎます。 ○無香料・アレルギー・テスト済み・ニキビのもとになりにくい処方です(全てのかたにアレルギーが起きない・ニキビができるないというわけではありません)。
  (レフィル)	<p>※2 4-メトキシサリチル酸カリウム塩 ※3 トラネキサム酸 ※4 整肌・保護成分:トルメンチラエキス、イチヤクソウエキス、グリセリン ※9 整肌・保護成分:ホワイトリリー、塩酸グルコサミン、グリセリン</p> <p><使用法></p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎日の朝・夜に、化粧水で肌を整えてから使用します。 ●手のひらにディスペンサー2回押し分をとります。(1回分使用量の目安:0.15g×2回)シミ・そばかすなどが気になる部分を中心に、<u>顔全体</u>にていねいになじませます。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> 1. 2. 3. 4. 5. </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>2回押し分を手のひらにとります。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>両ほお、頬、鼻、あごの5カ所に置き、丁寧になじませます。日焼けのしやすい鼻すじは念入りに。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>円を描くようにやさしくなじませます。あおはゆつたりと大きな円で、額もすみすみまで。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>目のまわりは特にやさしく、鼻すじから小鼻のまわりも。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>あご先・口のまわりも。フェースラインをなぞるように。</p> </div> </div>
HAKU メラノフォーカスV 20 (医薬部外品) 【数量限定品】 20g	
HAKU メラノフォーカスV 10 (医薬部外品) 【数量限定品】 10g	

■「HAKU」ブランドサイト <http://www.shiseido.co.jp/haku/>

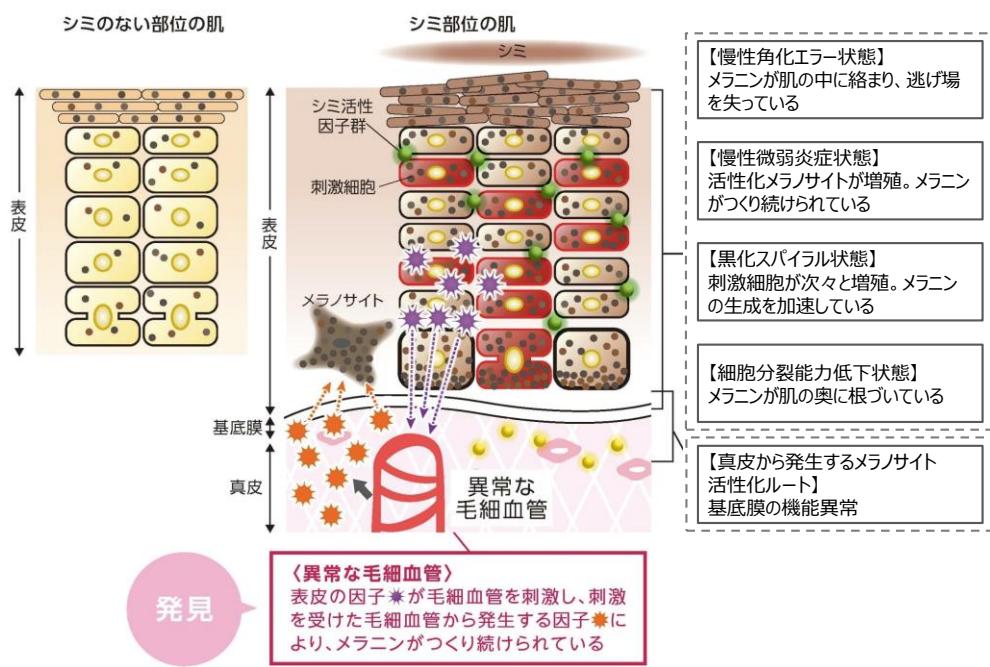
資生堂の最新美白研究

資生堂が解明してきた、様々なシミ部位特有の肌状態

資生堂は、シミを「メラニンの生成」という現象だけではなく、「メラニンを含む肌全体のエラー」と捉え、シミ部位の肌で起こっている、正常な肌とは異なる皮膚生理について、長年、研究を進めてきました。

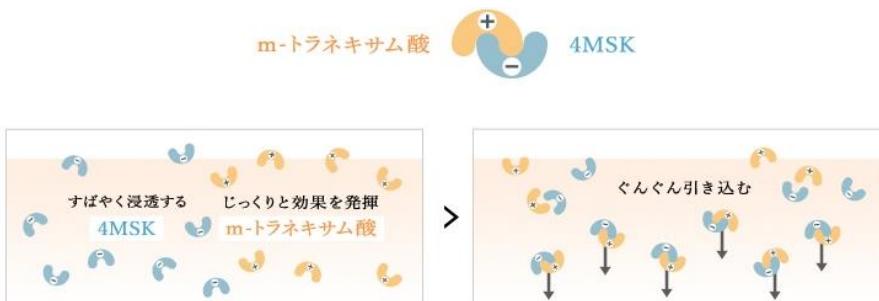
シミ部位の肌では内部でごくわずかな炎症が慢性的に起こり続け、それによりメラノサイトが常に活性化した状態でメラニンを生み出している「慢性微弱炎症状態」にあることを解明。幅広く肌への有効性を研究する中で、当時、肌あれ有効成分として知られていたトラネキサム酸に着目して薬事開発を行い、美白有効成分 m-トラネキサム酸^{※3}を生み出すことに成功しました。加えて、当時まだ化粧品の研究分野ではほとんど導入されていなかった遺伝子解析機器をいち早く導入し、シミ部位の肌で特異的に観察されるターンオーバー異常「慢性角化エラー状態」の要因を遺伝子レベルで解明。また、m-トラネキサム酸^{※3}に続き、チロシンをスタートとするメラノサイト内で起こるメラニン生成の各ステージにおいて、その生成を抑制する美白有効成分 4MSK^{※2}を13年もの歳月をかけて薬事開発し、世に送り出しました。資生堂が開発したこの2種の美白有効成分はそれぞれ異なるメラニン生成へのアプローチを持ち、あわせて配合することによりメラニン生成の様々な段階に、様々な方法で働きかけます。

資生堂は、「メラニン生成への対応」にとどまらず、先端のシミ予防研究により、シミ部位の肌特有の状態とあらゆる方面からシミの原因を断ち切るアプローチを研究し、新知見を見出していました。



日本で初めて、資生堂だけが実現できる「抗メラノ機能体」を開発

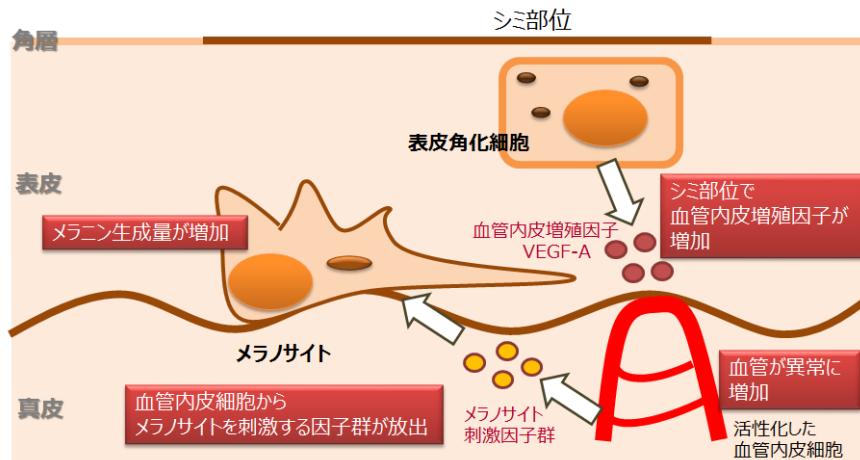
2011年、資生堂のシミ予防研究の総力を結集し、日本で初めて、異なる複数の美白作用機序を持つ美白有効成分4MSK^{※2}とm-トラネキサム酸^{※3}の2種同時配合に成功。マイナスイオンを持つ4MSKと、プラスイオンを持つm-トラネキサム酸を、ある一定の条件とバランスでイオンコンプレックス化させた、資生堂だけが実現できる「抗メラノ機能体」を開発しました。浸透性の高い4MSKが、じっくり効果を発揮するm-トラネキサム酸を引き込み、単独配合時よりもメラノサイトまでしっかりと届けることを可能にしました。



新知見

異常な毛細血管ネットワークがシミ形成に関与することを発見

資生堂は、新たにシミと血管の関係に着目し、「シミの奥に異常な毛細血管ネットワークが存在すること」、さらに「血管内皮細胞の作用がシミ・色ムラなどの原因のひとつであること」を明らかにしました。



シミの奥に潜む血管の発見と血管からのメラニン生成促進作用の解明

資生堂はシミ部位の皮膚では、種々の特異的なエラー^{※10}が生じていることを明らかにしました。今まで着目してこなかった肌深部にまだ明らかになっていない原因が潜んでいるのではないかと考え、徹底的に解析しました。
その結果、

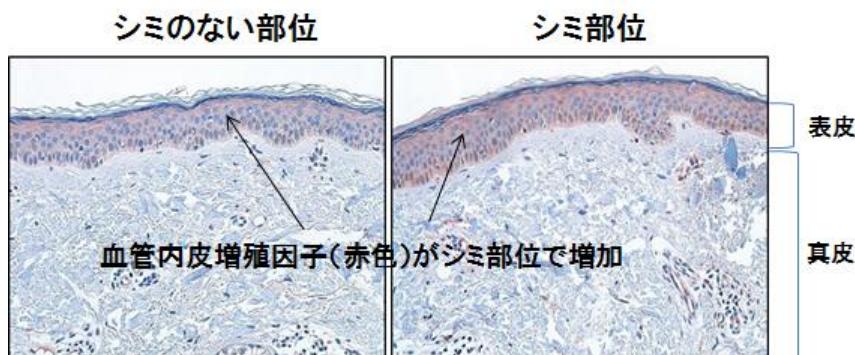
- シミ部位(日光性色素斑)の色素沈着部位では、血管内皮増殖因子(VEGF-A)が多く、毛細血管の数や面積が増加している。また、シミ部位と一致する部位で血流が増加している^{※11}
- 刺激を受けた血管(血管内皮細胞)からはメラニン生成を促進する因子が放出されるため、メラノサイトにおけるメラニン生成量が増大する^{※12}

ことを明らかにしました。

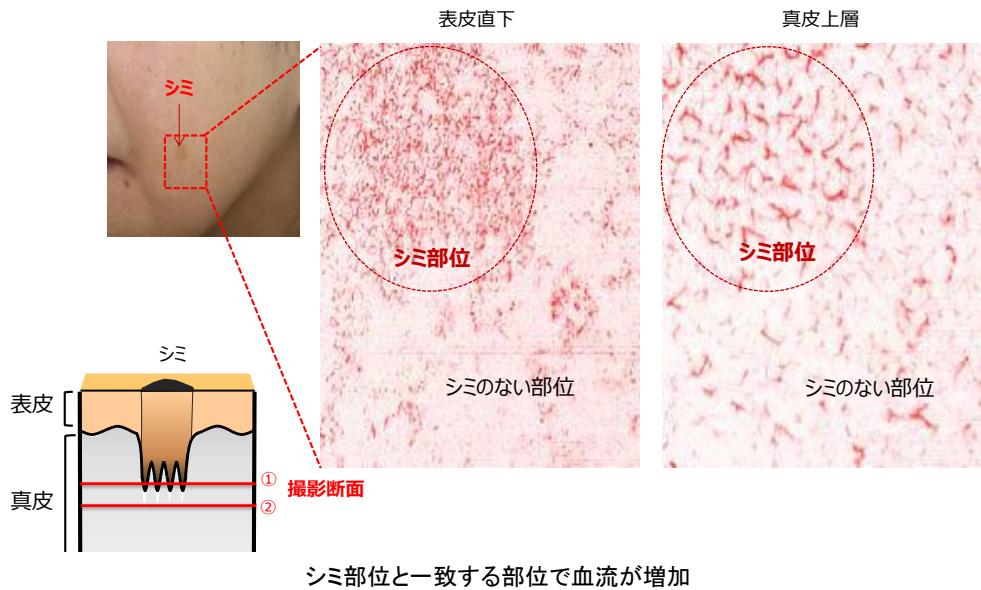
※10 慢性的に微弱な炎症が生じていること、角化が正常に行われていないことなど、肌の内部のそれぞれの層で生じている機能異常のこと。

※11 Increased blood flow and vasculature in solar lentigo, Journal of Dermatology 2016; 43: 1209–1213

※12 日本研究皮膚科学会総会(2016年12月)発表



シミ部位では表皮での血管内皮増殖因子(VEGF-A)量が増加



新解析技術

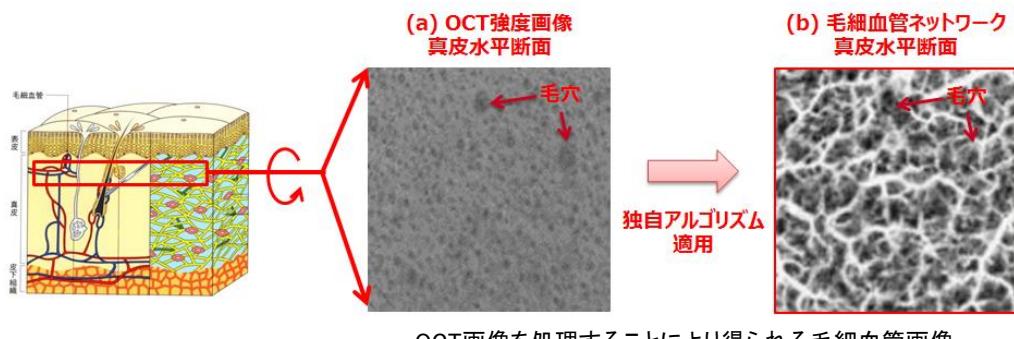
肌を切らずに毛細血管の可視化に成功

資生堂は、光を用いた最新の画像化技術を独自に応用し、肌を傷つけることなく、肉眼では見ることができない肌内部の微細な毛細血管の可視化に成功しました。さらに、長期の紫外線ダメージで発生するシミ(日光性色素斑)では、真皮上層に異常に発達した毛細血管のネットワークが存在することを、今回開発した可視化技術を用いて発見しました。

新規な血管可視化技術の確立

皮膚の血管は、皮下組織から真皮上層へと続く複雑なネットワーク構造をしています。従来の方法では、皮膚全体の血流量の評価はできるものの血管構造を可視化することができませんでした。そこで、近赤外光を使って肌内部構造を可視化できる光干渉断層撮影技術(OCT:Optical Coherence Tomography)を応用し、肌内部の血管構造を深さ別に高解像度で画像化できる技術の開発を進めてきました。

OCTを用いて顔の肌内部を画像化すると、真皮の構造が観察されます(図a)。高速で同じ部位のOCT画像を複数枚取得し詳細に解析すると、OCT画像の中で血流の動きに合わせ光強度の揺らぎ箇所があることが分かりました。今回、独自に開発したアルゴリズムを使い、この光の揺らぎのある箇所を特異的に抽出することにより、肌の中の毛細血管構造を可視化することに成功しました(図b)。



シミ(日光性色素斑)をターゲットに本技術を用いて評価した結果、シミのある部位はシミのない部位と比較し、毛細血管のネットワークが異常に発達していることを見出しました。